

どんな子どもに育てたい？



講演の様子



拾った木の実を使って親子で工作

10月9日（体育の日）、大山青年の家を会場に「親学講座（親子遊びのすすめ）」が開かれました。この講座は、自然にふれながら親子の交流を深め、親としてわが子をどんな子どもに育てたいか考えてみようと、就学前の保護者を対象に、教育委員会主催で行われたものです。

子育て実践交流会のご案内	
・日時	12月3日（日）9時～12時
・場所	保健福祉センターなわ
・内容	基調報告・実践発表・講演 ・講師 三浦清一郎さん

当日は、親子など59人が参加し、午前中、大人は元福岡教育大学教授で生涯学習研究者の三浦清一郎さんの講演を聞き、子どもたちは戸外で木の実を拾つたりして遊びました。午後は午前中に子どもたちが集めた木の

実や、木の枝などを材料に、力作しました。参加した保護者の一人は、「今日は来て良かった。子どもの育つ環境、大人のあり方など、考えることが沢山あると痛感しました」と話していました。



寄贈書と図書券を手渡す山陰合同銀行大谷常務

読書の普及活動を支援します

どうせん鳥取文化振興財団から、10月16日（月）に教育助成金として図書券10万円を寄贈いただきました。財団は山陰にていただきました。財団は山陰平成4年に、県内の教育・文化芸術・スポーツ活動を支援する

ことを目的に設立されました。利用しやすい図書館システム、学校への読み聞かせ活動など、町の読書の普及に努める活動を、今年度の助成対象事業として認めていただきました。



俳人 大原豊さん（門前）

門前の大原邸にたたずむ句碑

大原さんは昭和31年2月に末次雨城さん（八重）に手解きを受けたことがきっかけで、俳句への道を進むことに。仕事を続けながら地元の自然や動植物などを題材に、細やかな視点で俳

残したいと遺族が建てたものであります。句碑には略歴や、生前入会していた鶴俳句会の会員が追悼の意を込めて詠んだ17句などが掘り込まれています。

生前最後の句会で発表した俳人の大原豊さんの句碑が昨年秋、自宅の庭に建てられました。これは大原さんの生きた証しを残したいと遺族が建てたものであります。句碑には略歴や、生前入会していた鶴俳句会の会員が追悼の意を込めて詠んだ17句などが掘り込まれています。

句碑には略歴や、生前入会していた鶴俳句会の会員が追悼の意を込めて詠んだ17句などが掘り込まれています。

句碑に在りし日の思いを込めて

句づくりに励みました。句集「桐の花」を出版し、亡くなつた後

の花」を出版し、亡くなつた後遺族が「機の音」を出版しています。

句「雨と雪ごちゃ混ぜに降る弥生かな」と書かれた句碑は、ど

なたでも門前の生家を訪ねると見学することができます。大原

さんと親しい間柄であり、句碑の情報を提供していただいた林

原咲夫さん（下前谷）は、「立

派な句碑なのでぜひ多くの人に見てほしい」と話しています。